

平成 28 年度

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社グランツ		
事業所名	グループホームぼっかぼか花巻中央		
所在地	岩手県花巻市南万丁目1163-3		
自己評価作成日	平成 28年 9月 20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390500056-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 28 年 10月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

陽だまりの中にいるような「ぼっかぼか」と暖かく親しみやすい事業所を目指している。「ご利用者様、ご家族様の願いを叶える」という理念の下、これまでの暮らし、ご本人の能力・趣味・意欲を活かし、役割や遣り甲斐、楽しみのある生活が送れるような支援に行っている。利用者様の楽しみや喜びにつながるように毎年度テーマを考え、今年度は「安心、清潔、笑顔でいられるホームづくり」という目標を共有して取り組んでいる。研修の機会は毎月事業所内で内部研修を行う他、法人全体で外部講師を招いた施設内研修、また外部での研修にも職員が参加し、学んだ内容は事業所職員にも伝達講習会を開いている。地区親交会に加入し総会へ参加する他、文化祭に利用者様と共に参加している。小正月には地域の郷土芸能を施設で観賞するのが恒例になっている他、地域の踊りボランティアや保育園児の慰問なども受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「願いを叶える」の法人理念の下、毎年事業所テーマを定めており、今年は「安心・清潔・笑顔」とした。家庭的環境で利用者の権利を尊重し、礼節と敬意を持って接することで安心と尊厳ある生活が送れるよう努めている。地域の親交会に所属し文化祭などの各種行事に参加する一方、ホーム行事に保育園児や中学生、踊りサークルなどが来所する機会を設け、交流が図られている。また日常的な散歩に加え、コンビニや行きつけの店での買い物に随時出かけたり、併設する小規模多機能事業所と一体となって、ドライブや外食を楽しむなど、利用者笑顔が多くみられるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「願いを叶える」という法人理念に沿って職員育成を行っている。新人オリエンテーションに始まり、月例ミーティング、日頃の申し送りにおいて「利用者主体のケア」について実践するよう努めている。	法人理念「願いを叶える」のもと、事業所職員で提案し合い事業所独自の年度テーマを定め、今年「安心・清潔・笑顔」とした。4ヶ月毎に更に重点化を図り、会議などで共通理解も図りつつ日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	親交会に所属し総会や季節の行事には積極的に参加している他、地域一斉清掃や資源回収にも協力している。親交会以外の地区の演芸会や各種イベントも多く近隣である強みを生かして参加している。ボランティアが来所する事もある。	地域の親交会に加入しており、各種行事に参加し公民館で行われる文化祭に作品を出品、見学している。近くの保育園児が七夕会に来所し、中学生は吹奏楽演奏で来所している。時にはハンドケアボランティアの訪問もあり地域住民との交流を楽しんでいる。地域住民が気兼ねなく訪ずれる機会を多く計画したいと目標は意欲的である。	外出型交流を中心に積極的に支援している。利用者の生活行動力の低下が予想されることから、地域、近隣住民がホームに気軽に立ち寄り日常的に触れ合える場を工夫し「ぼっかぼか」の知識の還元も含めて計画が実現されつきあいが更に深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学時や申込み、相談があった時には、困っているご本人や家族の気持ちに添い、認知症の基本的な知識やケア、環境の大切さ等を事業所の方針と交えて説明している。家族会や運営推進会議の場においても同様である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月ごとに開催。季節の行事や日々の活動報告、実績報告、避難訓練や事故報告、勉強会報告等を行い地域の代表者と情報交換をしている。	小規模多機能と合同で開催し、地域の委員との意見や情報の交換のほか、話題内容に応じて消防署員などの参加を得るなど工夫している。家族から薬の管理に関する提案があり、運営に取り入れている。	運営推進会議の更なる活性化を求めて、委員、会議のあり方を模索している。目標達成計画に掲げた様な団体や機関からの委員を随時ゲスト委員に依頼し、頂く広範な意見提言を支援に活かせるよう、更なる努力を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい意見交換をしている。運営上の疑問点は保険者に確認したり、地域住民から貰う率直な市民の意見も聞いてもらいながら、地域で協力体制を築いていけるよう働きかけている。	市の長寿福祉課担当を運営推進委員に委嘱していることもあり、実情を理解し情報や意見の交換を行っている。介護保険制度や成年後見制度について適時適切な情報を得られ、利用についての連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職人には入社時のオリエンテーションにてパンフレットを用いて説明し周知させている。日頃から玄関や扉の施錠はせずに職員は連携を図りながら利用者様の声掛けや見守りを行い、拘束は行わない姿勢を維持している。	法人として職員採用時に具体的事例にも言及した研修を行い、またホームでは年間を通じてミーティングで確認し合っている。職員の見守りのほかセンサーマットを利用して転倒予防及び安全を確保している。以前家族の同意を得た拘束事例があったが、限定的であり現在はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	この一年は虐待防止について勉強会等は行えなかったが、ミーティングや申し送りの中で管理者や先輩スタッフから新人スタッフへの教育を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャー以外の職員はそうした制度に触れる機会もなく、理解が出来ていない。学ぶ機会をもてるようにしたいが、制度が複雑な為、指導できる者がいないのが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの内容、重要事項、料金等の説明を十分に行い、不安や疑問点を解消してもらえるように確認したり、補足を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の生活に関する報告の中で要望等があれば伺うようにしている。また運営推進会議や家族会に参加してもらい、実績、活動報告、事故報告等をし意見を聞き取りたいが、参加出来る家族が限られている。	利用者は日々の関わりの中で、家族からは毎月生活状況を郵送で報告して意見や要望を聞くツールとし、更に面会事や行事参加、家族会活動時に聞くよう努めている。地元の催し物(夏祭り・秋祭り)への参加の声があり、外出時の行先に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談等をこまめに実施できるのが望ましいが時間が取れないため、アンケートをとったり、日々の雑談の中で気軽に意見を求める等している。法人理念と現場の実情がかけ離れることのないよう声を掛けている。	管理者は日常生活やミーティングで職員の意見を聞き取り必要に応じ代表者会議に諮りながら運営に反映させている。また年度末にアンケートを実施し、意識や要望の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には職能評価を実施し得意な事、苦手な事など明らかにしている。意欲、能力のある職員に対しては具体的な目標を共に掲げるようにし遣りがいを感じられるよう努めている。職場に対する意見として職員アンケートを持つこともある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月関心のあるテーマに関して勉強会を開催している他、隔月では事例検討会も開催。参加人数も増えている。また外部講師を招いた講習会の他、外部で開催される講習会にも参加を促しスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に所属し開催される研修会には積極的に参加するようにしている。また同法人の他事業所職員との意見交換等ができるよう事例検討会や季節の行事等には職員が交代で参加できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族や親類等関係機関からご本人の困っている事や健康状態のほか、生活習慣や楽しみを把握するよう努めている。職員にはご本人が安心出来る環境と耳を傾け寄り添う関係作りを指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談の段階で、誰がどのように困っているか、何を求めているのか話を聞き要望を伺うようにしている。また介護計画書には、ご本人とご家族の意向が反映されている。初期の段階では丁寧に連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考える問題であれば、当法人内のケアマネージャーにも同席や相談を求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、調理や盛り付け、食器の片付、洗濯物を畳むなどの家事仕事を利用者と共にやっている。また畑仕事、郷土料理、裁縫など生活歴を生かした取り組みを行ない、お互いに学んだり支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、ご家族から意向を聞き取るようにしている他、面会時や介護計画書の中で普段の利用者様の様子について伝え、暮らし方や本人の状態について理解してもらうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族より了解を得たうえで馴染みの方の面会、電話を受け入れている。また行きつけの美容院や商店、地域の催し物などに外出する機会を設けるようにしている。	親族や知人が来所し、居室やホールで歓談している。家族の協力を得て、花火大会など地元のイベントや祭りに出かけている。馴染みの店で買物を楽しんだり、理容・美容院へ職員の同行で行き店員と会話を楽しみながら利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士でレクリエーションをしたり外出が出来るように配慮している。また認知症がある利用者様が孤立しないよう、利用者様同士の会話に職員が間に入るなどし関わりを大切にするように心掛けている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の相談も受け入れ繋がりが切れなようにし、時には季節の行事やレクリエーションに参加してもらったりして職員や利用者様との関係が継続できて喜んでもらえるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人らしく過ごして貰えるよう、ご本人・ご家族よりお話を聞き、希望に添えるよう努めている。生活歴から想像したり、なじみの場所に足を運んでみる等の工夫を行っている。	日々の支援時の会話や生活歴を参考にした話題、言葉がけでの反応、表情から思いをくみ取るようにしている。生家の夏祭りの思い出を語った利用者の思いを家族に繋げ宮祭りに出かけた方、音楽好きの方にはCDで笑顔が見られるなど一人ひとりの願いが叶えられるよう支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際、今までの生活の様子をご家族・ご本人から話を丁寧に聞くようにしている。また生活習慣について、地域・家族との人間関係、サービス利用時の様子なども把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りでその日の様子、月例ミーティングで1か月の様子を振り返り、把握に努めている。日々、職員と利用者様との関わりを多く持つように指導し、その中から機能低下や精神状態等の変化があれば気が付くように心掛けている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上で介護サービス計画書を作成している。修正の必要があればご本人、ご家族に相談し了承を得た上で改正している。計画書は毎月ご家族へ送付し意見を伺っている。	職員会議で話し合い計画作成担当者が中心になって計画を作成し、状態の変化に応じて家族とも相談しながらサービス内容を見直している。計画書は毎月家族に送付しており、「今月のご様子」欄を設けてその内容にも意見や希望を伺っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別申し送りノートを活用している。またヒヤリハット、レク・外出記録も必要時に記録している。ミーティングでそれらを振り返り、職員で再確認するように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院対応がご家族の負担になることも多いと考え、原則事業所で対応している。また外出や外泊、家族がホームに泊まる事も出来る旨を伝えるようにし、ご本人と家族の個別のニーズにも応えられるよう、努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	七夕会では保育園の園児に、敬老会では地区の踊り会の方に慰問に来て貰っている。また認知症や身体が不自由になった方でも行きつけの理美容院を利用したり、出張カットも2か月に一度活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけの病院を継続している。必要に応じて協力病院等に変更する場合には、本人や家族に理由を十分に説明し了承を得た上で変更している。	市内のかかりつけ医受診は、定期薬処方を通院対応は殆んど職員が行い、病状の変化や治療方針の変更がある時は家族にも同行を依頼している。事業所の協力医に変更する場合には、家族・利用者の同意を得ており、受診には介護職員が同行し、結果を家族へ伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当等事業所の看護職員や先輩スタッフが日常的に健康管理に努め情報交換をしている。それを全体に周知するよう指導ができています。ほか、定期通院時にかかりつけ医に報告、相談をして指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡をとり経過の把握を行っている。また退院前のカンファレンスに参加し情報収集を行い安心して元の生活に戻れるように支援内容の検討、調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合の意向確認を行うとともに施設で可能な支援について説明を行っている。終末期が近づいている利用者様とはかかりつけ医と連携を取り、ご本人やご家族の意向に添えるように必要な支援を行うように努めている。	入居時、事業所のケア内容について説明し、同意を得ている。看取り指針はないが、かかりつけ医、協力医との連携、職員のスキルの向上を図りながら、利用者、家族の意向が叶えられるような支援に努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会にて応急手当を学ぶ機会を設けている他、緊急対応マニュアルを作成し全職員が内容を把握するように努め緊急時に備えている他、定期的に見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回開催し、火災や地震が起きた時の避難誘導等を実施している。訓練には地域民生委員、区長にも見学に来てもらい意見を貰っている。	火災想定避難訓練を行い、消防署員の助言や、立ち会った運営推進委員からコメントを頂いた。生活空間が2階のため屋外への避難誘導に課題があり、近隣住民や自主防災隊の協力が求められる。なお備蓄物資として飲料水・食料の3日分がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室やトイレ、入浴の際の日常的なケアにおいては、利用者様のプライバシーに配慮して行っている。業務報告などの際も、利用者様が気にしない様に個人名を出さずにする等の工夫を行っている。	居室やトイレを訪れる際は、声がけとノックをして確認するほか、利用者の立場を思い「恥ずかしい」「嫌な気持ち」とならない様に、声がけなどの際は寄り添い、さりげなく行うなどに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声や仕草による意思の表出を汲み取れるよう、ゆっくりと話ができる時間を設けるように努めている。自己決定においても、利用者様を急かす事のない対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活のリズムを尊重し可能な限り対応している。外出やレクリエーションへの参加は無理強いをせず本人の意識を促す対応に留めている。参加を拒まれた場合にはその理由や対応方法、改善案などを職員で考え共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を共に選んだり、衣服を購入する際には一緒に買い物している。理髪店などは、行きつけがあれば可能な限り継続して利用している。身だしなみへの意識が弱くなっていくので、その方に合わせて必要な支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行うほか、おやつや季節の料理を一緒に作っていただいている。畑で採れたものを使うなど、食材にも関心を持って貰っている。	食事は当日の当番職員が献立を考え、利用者とともに野菜の皮むきや千切りなどの調理や、盛り付けを行っている。献立希望は利用者の声を引き出すように心がけ、敬老会でのバイキングや外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量に配慮が必要な利用者様については、声掛けや見守り、介助を行い食事の量などを記録に残している。また、各利用者様の状況に応じて、硬さや大きさなどに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後もしくは就寝前に、各利用者様に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じ歯科受診し、義歯や口腔衛生のなど口腔状態を良好に保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄リズムを把握し、トイレへの誘導をしている。排泄リズムを自身で把握できない方についても声掛けを行い、出来る限りオムツへの移行のないように支援している。	一人ひとりの排泄リズムを記録・把握し、排泄は出来るだけトイレでを基本に、仕草等を察知するなど気配りしながらトイレ誘導している。夜間居室でポータブルトイレを使う人はいない。支援によりリハビリパンツ利用から普通パンツとなった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや野菜、果物などの食物繊維の多い食品を毎日摂れるよう、積極的に献立に組み込んでいる。また、水分不足にならないよう、補給の時間を設けている他、運動不足にならないように運動する機会を設けるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を勧めながらも、時間帯などを利用者様の希望に沿う形で支援するよう心掛けている。	毎日準備し、週3回以上入浴が可能で、午前中を原則としているが心身の状態や気分によって午後とするなど弾力的に対応している。車いす利用者は車いす対応できる併設施設での入浴ができ安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者様については、無理強いをせず、話を聞くなどの対応をしている。日頃から日中の活動を増やすなど心掛けている。昼寝を希望される方は時間帯を縛らず、自身の居室や小上りで休んで貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬のファイルを設置し常時確認できるようにしている。変更があれば目的、用法、注意点などを申し送り、情報共有している。薬セット、内服介助、終了の際には職員が複数回チェックを行い、誤薬などがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、趣味活動やレクリエーションを用意し一緒にすることで楽しみを持って貰えるように心掛けている。また自立支援の姿勢を取り、出来る事はなるべく本人にやって貰う事で、意欲を維持し、状態が低下しない様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿えるように外出支援を行うよう努め、散歩やドライブなどを日常的に行っている。また、地域の催し物へのお誘い等外出の機会を積極的に作るよう心掛けている。	日常的には施設周辺を散歩し、菜園の観察や近隣の風景を眺めながら外気浴をしている。また、コンビニへの買い物や、リフト付車両など複数の車を使い、小規模多機能利用者と一緒にドライブを楽しんでいる。春の花見、田んぼアート、紅葉狩りなど季節や行事を計画的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にてお小遣いをお預かりし管理しているが、ご本人の希望とご家族の同意の下、ご本人の好きなお菓子やコーヒーを買ったり、お土産を買う等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの了承を得た上で、今までのなじみの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。また、手紙の返事や年賀状を書いたりする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの明るさや室温、湿度、職員の足音や話し声が不適切ではないか注意している。トイレの臭いも気になるので汚れ物をそのまま放置しない等の配慮をしている。リビングには季節感のある創作物や行事の時の写真を飾るなどして装飾し、無機質にならない様に気を付けている。	生活空間は2階で窓や天窓からの自然光に満ち、眺望も良く明るく開放的である。リビングは回廊式で職員は利用者に見配りできて安全と安心感がある。利用者は夫々の場所でテレビ観賞や談笑、更には歩行と思いつきにゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの和室や食卓以外の場所でも過ごせるよう椅子を置いたり昼寝用座布団を置いたりしている。ベランダ前は大きな窓があるため景色を見ながら利用者様同士がゆっくりお話しすることも多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際には、ご家族に使い慣れた馴染みの調度品を持参して貰うようにお話し、ご家族とご本人、職員が一緒になって片付けや飾りつけをし居心地良く暮らせるように工夫している。職員からの色紙やカード、家族の写真なども飾っている。	使い慣れたタンスや調度品が整然と配置されており、利用者の希望や身体状況に応じて、ベッドまたは畳敷きで布団を使用している。使い慣れた小物や現役時代の思い出の写真が飾られ潤いがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や玄関にはスロープや手すりを設置し、ベットには介助バーを取り付け安全の確保と自立の促進に努めている。1階と2階の移動には階段とエレベーターがあり、利用者の能力や状態に合わせて使用している。		